

〈調査報告〉

小川シゲノから上田トシへの伝承 3

大谷 洋一

- 目次 1. まえがき
 2. 凡例
 3. ソロマのウエペケレー1
 4. ソロマのウエペケレー2
 5. 註

1. まえがき

本稿は、小川シゲノ氏（1921年生まれ）から上田トシ氏（1912年生まれ）へ、録音テープを介して伝わったアイヌ口頭文芸のテキストと和訳である。物語では、流行り病の神が川伝いに人間の村へ近づいたところ、ソロマという植物の名を聞いて恐ろしくなり、その村に病気を蔓延させることが出来ないまま去っていく様子が語られている。両語り手は共にソロマを「コゴミ（クサソテツ）」と言い、その他の植物を含めない名称であると説明している。小川氏は平取町貫気別と穂別町仁和において、伝染病を防ぐためにソロマを用いた祈りが行われる様子を見ており、伝染病が流行りそうになった場合には自らも祈ることがあると話している。上田氏の場合はソロマがそのように用いられるのを知らなかったが、戸口に臭いのするものを下げることで臭いを嫌った病気の神が家に入れないようにすると共に、流行り病の神に食べ物を持たせて送る祈りの様子を見た経験がある。

両語り手は、この物語に対して「ソロマのウエペケレ」と呼ぶことが多かったので、それを物語の表題にした。表題の末尾に「-1」が付いているのは小川氏の語り、「-2」が付いているのは上田氏の語りである。両者間の伝承における変移等の問題については別の機会を持って報告したいと考えている。なお、あらすじは筆者が記した。

以下に伝承と採録の経緯を簡単に記す。

〈伝承と採録の経緯〉

- ① 1960年代、平取町貫気別において、当地出身の故・斉藤ウメ (1898～1980) 氏がアイヌ語で小川シゲノ氏に語る。
- ② 1996年12月22日、平取町貫気別において、小川シゲノ氏から筆者が採録する。
- ③ 1997年2月28日、平取町旭において、筆者が上記の採録テープを上田トシ氏に聞かせる。
- ④ 1997年6月26日、平取町旭において、上田トシ氏から筆者が採録する。

本報告の音声資料は北海道立アイヌ民族文化研究センターが保管する。なお、音声テープの文字化や翻訳にあたって、モニターとなっていただいた方々から貴重なご助言があったことを記して感謝申し上げます。

2. 凡 例

- (1) 本文は原則として、左側に語りの部分を、右側に語句の意味を記す二段組にしてある。
- (2) アイヌ語のローマ字表記について、上田氏の場合は左側語りの部分の下に記す。小川氏の方のローマ字表記は語句の意味と共に右側に記す。日本語よりもアイヌ語の少ない語りを記述する際、(1)の制約がある中で行数を減らすための試みである。
- (3) アイヌ語カタカナ表記は、音韻交替により変化した音や「わたり」の音などをほぼ文字化する。
- (4) アイヌ語ローマ字表記は、音韻交替により変化した音や「わたり」の音などをなるべく表記しない。例：ポインサム サンマ pon sisam san wa
- (5) 大文字のローマ字表記は、日本語であることを示す。
- (6) アイヌ語表記の分かち書きは、なるべく一語とみなした単語ごとに分けて表記する。カタカナ表記は、つながりの強いと考えられる言葉を接して表記する。
- (7) 言い差しなどで音が詰まった個所を必要に応じて「、」や「,」で示す。
- (8) 日本語北海道方言などのわかりにくいと思われる個所は()内に補足する。
- (9) アイヌ語のニッパ nispa (紳士。長者。物持ち。金持ち。旦那様)とカムイ (神。熊。自然。立派な人への尊称)は、日本語訳においてもアイヌ語から借用したままに記している場合がある。

3. ソロマのウエペケレー1 〈あらすじ〉

(語り手：小川シゲノ／口演時間：8分25秒)

私はイッカラの川奥に住む物持ちでした。私の夫は狩に行くと、鹿でも熊でも獲り、私も畑で粟や稗を収穫したので、何不自由ない生活をしていました。しかし、一緒に何年と生活していても子供を持つことが出来ず、ただそれだけを欲しがっていたところ、ようやく妊娠することができました。私の出産が近くなると、心配した夫はあまり山へ行かなくなりました。私が男の子を産むと、それを喜んだ夫は、なおいっそう働くので何不自由もなく暮らしていました。夫が山へ行った間、私はよちよち歩くようになった子供を連れて川へ行きました。水を汲み終わったので、あちこちと走り回っていた子供を呼びました。理由は知りませんが夫は子供にソロマ（コゴミ）と名づけていたので「ソロマー！ソロマー！帰るから早くこーい！」と呼んでいると、川下の方から、青いもや、赤いもや、黒いもやなど、いろいろな色のもやが川口から上って来るのが見えました。驚いた私はソロマを呼び寄せて家に帰りました。そこへ夫が帰って来たので、川で見たことを話すと、それを聞いた夫は炉の横座に座って「何がやって来たのか、私にはわかりません。火の神様にお任せしますので、どうぞ事の次第を教えてください」と祈りました。食事を終えて横になった夫は夢を見ました。「私は流行り病の神である。お前の村を病気にするためイッカラへ来たが、私たちはソロマほど恐ろしいものがないのに、お前の妻が『ソロマ！ソロマ！』と言っていたので、恐ろしくなって引き返したのだ。流行り病の神が歩いた時は干したソロマやいろいろな食べ物を用意して送ればいいのだ」ということだったので夫は干したコゴミやいろいろな食物を用意して、病気の神が自分の村へ来ないように祈り続けました。その後、息子のソロマも成長して、夫と一緒に熊や鹿を獲るようになりました。息子は美しい嫁をもらって子供をたくさん持ったので、私は孫に囲まれて幸せな老後をすごしました。流行り病の神様が歩いた時は、コゴミで見送ることを忘れないようにと、子供によく言い聞かせて、私はこの世を去りました。

<本文>

イシカラ エムコ コン ニシパ	iskar emko kor nispa イシカリの川奥のニシパが
アネ ヒネ アナン パクノ ニシパ	a=ne hine an=an pakno nispa 私であって、これほどのニシパが
イサム ニシパ アネ ヤッカ	isam nispa a=ne yakka いないニシパが、私であって
アホク アナク エキムネ コロ	a=hoku anak ekimne kor 私の夫が山へ行くと
ユク ネ チキ カムイ ネ チキ	yuk ne ciki kamuy ne ciki 鹿でも熊でも
エ、、エウナルラ ⁽¹⁾ ネッ アエルスイ カ	eawnarura nep a=e rusuy ka 運ぶ。私は何を食べたいとも
アコンルスイ カ ソモキノ アナン ペ	a=kor rusuy ka somo ki no an=an pe 欲しいとも思わないで私はいた。
ネ アホク エキムネ すれば あー、、	ne a=hoku ekimne SUREBA その夫が山へ狩に行く
それこそ キナ ハルフ	SOREKOSO kina haruhu (私の方は) たくさんの山菜の食物、
ウサ トイタ ウサ アキ して	usa toyta usa a=ki SITE 畑起こしとかいろいろして
ウサ ムンチロ でも ピヤパ でも	usa munciro DEMO piyapa DEMO いろいろな ^{あわ} 菜でも ^{ひな} 稗でも
なんでも、アエトイタ して	a=etoyta 私がそれを植えて
何不自由しないで いたんだけど	posak=an 私は子供がいらない
たった 不自由するのは ポサクアン して	posak 子供がない
もう何年も 一緒にいても ポサク して	poeykoytupa 子供を欲しが
え、、ポエイコイトツパ している	rapokkehe ekuskonna その頃、突然
ラポッケへ エクッコンナ、だか、、	急行列車に (とても早く: 比喻)
急行列車に こんど 腹おっきくなって	腹おっきかったけ (妊娠すると)
腹おっきかったけ あれから	おやんじ (親父: ここでは夫を指す)
おやんじ もう そんな お腹	nina 薪採り
おっきいながら 山さ行か、、ニナしたり	toyta SITE usa haruhu
トイタ して ウサ ハルフ	

ウサ オカイベ ポロ イキリ

こさえて 冬なったら 食う段取り
しなきゃなんないから そうやって
いるうちに こんど う、腹
段々 大きくなって もう産む月
来るようになってからは もう お、
自分の おやんじも心配で あんまり
エキムネ ソモキノ アナン し、

ラポッケへ ビリカ ワ オケレ

オッカイボ⁽²⁾、ヘカチ アコロ して

子供できて えー、こんど なほ
おやじ喜んで それこそ いっしょけん
か、稼ぐ いっしょけん、
ウサ チロンヌツでも 鹿でも熊でも
持って来て 何ふ、ひとつ不自由しないで
いたけども、うー、アコロ おやんじ
また⁽³⁾ エキムネ ワ イサム ラポッケ

こんど ベトッタ もうそのうち
話が早いから その子、わらし
もう テツテレケして もう走って
歩くようになったけ なほ おやじ
めんこがって 自分ら大事に何よか
針よか何よか 大事に大事にしているもの
おやんじ また山さ 行っていない後に
こんど もうシットケシ するから
あー、ベトッタ ラワン⁽⁴⁾、川、
ま、アイヌ言葉も言えないから
川さ行って ワッカタしに行って、え、
ワッカタしたけ また アコロソン、お、

畑仕事をして食物とか

usa okaype poro ikiri

いろいろな物の大きな山

こさえて (をつくって)

ekimne somo ki no an=an SI,

山へ行かないでいた

rapokkehe pirka wa okere

ところ、とてもかわいい

olkaypo, hekaci a=kor SITE

男の子を私は産んで

なほ (なお)

いっしょけん (一所懸命)

usa cironnup いろいろな狐

a=kor OYANZI 私の夫が

MATA ekimne wa isam rapokke

再び山へ行っていない間

pet or ta 川の所に

わらし (子供)

terterke よちよち歩く

なほ (なお)

めんこがって (かわいがって)

sittokes 夕方

pet or ta rap=an 川の所に私が下りる

アイヌ言葉 (アイヌ語)

wakkata 水汲み

a=kor son 私の子供

^{かみしも}
 上下さ走って 歩いているから
 あー、もう帰るから 来い来いって
 そう言ったけ なしてか
 アコロ おやんじ アポホさ
 ソロマ セコロ レヘ アリ⁽⁵⁾して
 そして ソロマ ソロマ もう帰るから
 早く来い 早く来いって言っている
 ラポッケへ オビシネ それこそか

 シウニン ウララ フレ ウララ
 クンネ ウララ いろいろな その、
 ウララ、こう 川^{のほ}上って来ているの
 見えて 見えているから アシ、
 おっかないから来い ソロマ ソロマ
 早く来い 早く来いって そう言って
 こんど イントマして その
 フレ ウララ クンネ ウララ

 レタラ ウララ ウサ オカイベ⁽⁶⁾

 ウララになって来たの 見えたから
 こんど そのアコロソン 呼んで
 ソロマ ソロマってって 呼んで こんど
 そ、ワッカタ たなぐながら アコロソン

 ついて来て 家 にいて たけ
 そこさ アホク エクして こんど
 「なして シリ、タネ シットケン

 するもの 物も炊かない
 なんも スケもしない
 なんも しないでいる？」ったけ
 タツネカネ ペトッタ ラパン アイネ

 川さ下りて行っただけ ワッカタして こんど

なしてか (何故か)
 a=kor OYANZI a=poho SA 私の夫が子供へ
 sorma sekor rehe ari SITE ソロマと名付けて
 sorma コゴミ

 rapokkehe opisne SOREKOSO KA
 その間に浜の方から、なんともはや
 siwnin urar hure urar 青もやと赤もや
 kunne urar 黒いもや
 urar もや。かすみ。ガス。
 asi, (asitoma 恐ろしい：言い掛け)
 sorma コゴミ

 isitoma 恐れる
 hure urar kunne urar
 赤いもやと黒いもや
 retar urar usa okaype
 白いもやといろいろなもの
 urar もや。かすみ。ガス。
 a=kor son 私の子供
 sorma コゴミ
 wakkata TANAGU NAGARA a=kor son
 水汲み (したものを) 担いで我が子を
 たけ (そうしたところ)
 a=hoku ek 私の夫が来る
 "NASITE sir, tane sirtokes
 なぜ、もう日が暮れる
 するもの (～のに)
 suke 料理
 たけ (と言ったところ)
 tapne kane pet or ta rap=an ayne
 このように川へ私が下りた結果
 wakkata 水汲み

こんど へバシ見たけ その^{し6}下の方から
 それこそ フレ ウララ クンネ ウララ
 レタラ ウララ シウニンしたやつ
 いろいろなもの あの、こゝろ来たの
 見えたから こんど アコロソン 呼んで
 『早く、ソロマ 来い来い』って言って
 言って帰って来て そしてスケもしないで
 わらし抱っこして そこさ来たけ
 あれから自分のおやんじ まかなって
 きた、だか、外に まかといて
 ちゃんとして 入ってきて
 アペエトク タ 座って
 こんど カ、フチアベさ
 オンカミ ア オンカミ ア していて
 いて エネ ハウアニ それこそ
 「ネフ エク ワ アヌカラ ヤッカ、

それこそ フチアベ エコシ
 カムイ エコシするから ちゃんと
 お一、その わけ おせーてくれ』って
 そう言って おやんじ カムイノミして
 こんど スケして イベして
 ホッケアンしたけ ホッケアンしたけ
 ウェンタラフ アオ、アホク ニシバ

ウェンタラフ したけ タフネカネ

「アシヌマは その 流行り病気⁽⁷⁾
 アネ ワ タン イシカラ エウン 来て

アコタンウェンテ、コタンウェンテ

するつもりだったもの こんど
 その 自分たちは そのソロマ パク
 アシトマフ イサムベ だもの

hepasi 川下へ
 hure urar kunne urar 赤もやと黒もや
 retar urar siwnin 白もやと青

 a=kor son 私の子供
 sorma コゴミ
 suke 料理
 わらし (子供)
 まかなって (身なりを整える)
 まかといて (装備をはずして)
 ちゃんとして (きちんとして)
 ape etok ta 横座に
 ka, huci ape 火の神
 onkami a onkami a 祈り続けた
 ene hawean hi このように言った
 nep ek wa a=nukar yakka,
 何か来て、私が見ても、(わからないので)
 huci ape ekosi 火の神に任せる
 kamuy ekosi 神に任せる
 ose-てくれ (教えてくれ)
 kamuynomi 神へ祈る
 suke 料理/ipe 食事
 hotke=an SITAKE 私が横になったところ
 wentarap a=hoku nispa
 夢を私の旦那さまが
 wentarap SITAKE tapne kane
 夢を見ると次のように
 asinuma 私は
 a=ne wa tan iskar eun KITE
 私であって、このイシカリへ来て
 a=kotan wente, kotan wente
 あなたの村に被害を与える

 sorma pak コゴミほど
 a=sitoma p isam pe DAMONO

その ソロマ ソロマ セコロ
エハウェアンして それこそ
ソロマ アナクネ 流行り病気
流行り風邪 あるときに ソロマって
えー、ハルソヨマレ すれば、

パク アシトマフ イサムベだもの

そうやって その「ソロマ ソロマ」って
エハウェアン⁽⁸⁾ して、
エマチ言ったんで それで自分たち
おっかなくて ほんとは イッカラさ
その 来るやつ、 そうゆうふう
に 言って途中から戻って 行ったんだから
何か キマテッした時には ソロマ
ちゃんと ビリカノ サッケして その
ソロマって、流行り病気 歩いたときは
ソロマだり ウサ ハルフ ウサ ブクサ

ウサ オカイベ、 ハルフ ちゃんと

用意して 干しておいて それで
流行りカムイ送れば ア、アシトマ
しないから」って そう言って
ウェンタラフしたもんだから
オンカミ ア オンカミ ア して こんど

次の日 こんど ソロマ サッケして
ちゃんとして おいたやつ
それで えー、ちゃんと あのー、
「流行り病気 イテキ クナク⁽⁹⁾
アコロ ミンタラ コタン オルン エク

しないように」って言って こんど

恐ろしいものがないものだが
sorma sorma sekor コゴミ、コゴミと
e=hawean お前が言う
sorma anakne コゴミというものは
sorma コゴミ
E, harusoyomare SIREBA, ,
食物を外に置けば
pak a=sitoma p isam pe DAMONO
これほど恐ろしいものがないもの
sorma sorma コゴミ コゴミ
e=hawean お前が言う
e=maci お前の妻が
iskar イッカラ (地名)
来るやつ (行くつもり)

kimatek 驚く/sorma コゴミ
pirkano satke よく干して
sorma コゴミ
sorma DARI usa haruhu usa pukusa
コゴミとか食物や行者ニンニクとか
usa okaype haruhu CANTO
いろいろな物、食物をきちんと

kamuy 神/asitoma 恐ろしい
wentarap 夢を見る
onkami a onkami a SITE KONDO
祈りに祈ってから
sorma satke コゴミを干す

iteki kunak 来るな
a=kor mintar kotan or un ek
私の庭、村の所へ来る

アヘコテニッパ ハルソイオマレして

a=hekote nispa harusoyomare SITE

私の旦那様が食物を外に置いて

こんど そのうちに その

「アコロソソ ソロマ」ってって ゆう

“a=kor son sorma” TETTE YUU

「私の子供、ソロマ」と言う

もんだから それこそ ルプ、

rup, (rupne 成長する。体が大きい。)

おっきくなって 自分のおやんじと

一緒に山さ行って 鹿でも熊でも殺す

こんど ビリカ ワ オケレ メノコ

KONDO pirka wa okere menoko

そして、とても美しい娘を

嫁さんにもらって 自分は子供一人

sorma コゴミ

できたけど 自分の息子 ソロマはこんど

子供いっぱいできて それこそ

a=hekote nispa 私の旦那様

アヘコテニッパも喜ぶ 自分も喜んで

自分の息子 嫁もらって 孫できて

孫いっぱい いるもんだから 何ひとつ

不自由ないで いたもんだけど 若い時

onne or un 年をとったときに

子供できない ばかりでいて オンネオロン

子供できて その子供にお世話になって

自分たち この世去るんだけど 自分ら、

この世去っても、べ、必ず忘れないで

ソロマとって ビリカノ サッケして

sorma TOITTE pirvano satke SITE

コゴミを採って、よく干して

流行りカムイ アツカシたときは

それでちゃんと見送りして⁽¹⁰⁾

kamuy apkas 神が歩く

ハルソイオマレすれば いいからって

haru soy omare 食物を外に出す

そう言って、アコロ ハポゆって

a=kor hapo YUTTE 私のお母さんが言って

イサム オカケへ 子供らいっぱいいる

isam okakehe 亡くなった後

もんだから何不自由なし いて どうして

きたもんだって シネー オッカヨ⁽¹¹⁾

どうして (そうやって)

sine okkayo 一人の男が

ゆって この世 去ったと。

4. ソロマのウエペケレー2 (あらすじ)

(語り手：上田トシ／口演時間：14分53秒)

私は夫と仲良く暮らしていた。夫は山へ行くと、熊や鹿をたくさん獲り、私も畑や山からたくさん食べ物を収穫するので、何不自由もない生活をしていました。しかし、私たちには子供がいなかったの、ただそれだけを欲しがっていたところ、ようやく私は妊娠することができました。とても喜んだ夫が、なおのこと私を大事にしてくれると、かわいい男の子を私は産みました。子供が無事に成長するのを見た夫は安心して山へ行き、熊を獲って来るので何不自由もなく暮らしていました。私はよちよち歩きする子供を外に連れ出し、あちこち動き回る子供の後を喜んで追いかけてました。夫もとても子供を可愛がりました。ある日、私は子供を連れて川へ行きました。私が鍋とお碗を洗っている間、子供は川縁を飛び跳ねて遊んでいましたが、洗い物が終わって川下を見ると、赤や緑や白いもやが、互いにねじり合い、混じり合いながら、川に沿って上って来るのが見えました。夫がどうして子供にソロマ(コゴミ)と名づけたのかは知らなかったのですが、驚いた私は、「ソロマー！ソロマー！早く走って来い！お化けが来て恐ろしいから早く来い！」と子供を呼びました。やって来たソロマの手を掴んで家に帰り、子供を抱えて家の中に隠れていました。夕方になり、山から帰って来た夫が「どうして食事の準備もしていないのか？」と言ったので、川で見たことを話したところ、驚いた夫は「いろいろな色のついたもやの正体を教えて下さい」と火の神へ祈りました。それから、私たちは食事をとって眠りました。翌朝、夫が夢で見たことを話しました。「白い小袖を着た神様が現れて『私は流行り病の神である。このイシカリの村を滅ぼすために川を上って来たところ、これほど恐ろしいものがないと思っていたソロマ(コゴミ)であったが、お前の妻の「ソロマ！ソロマ！」と言う声を聞いて、私は恐くなり、村を荒らすのを断念して帰ることにする。そこでお前の方から火の神に頼んで、私の所に食料を届けてくれ。そうしてくれたなら、お前たちの村は何の病気も流行らない村となって暮らせるだろう』という夢を私は見た」ということでした。夫は山菜や精白したもの、タバコなどをお膳に入れて、流行り病の神へ食べ物が届くように火の神に祈ってから外へ出て、それらを撒き散らしました。その後、他の村では伝染病が流行っていると噂に聞いたが、私の小さな村はどんな病気も流行らずに無事でした。そして、私たちの子供が成長して、年は若かったのですが結婚して子供を持ちました。私と夫は、孫たちを子守りしながら幸せに暮らしました。今や私も年老いたので「この村は山菜のおかげで伝染病が流行らなかったのだから、山菜であっても何であっても教訓として覚えておき、この村を立派にするのだよ」と子供たちへよく言い聞かせて死んだ、と一人の女が物語ったのである。

〈本文〉

アコンニシパ アン ヒネ

a=kor nispa an hine

私の旦那様がいて

ネ、ネッ アエルスイ カ

nep a=e rusuy ka

何を食べたいとも

アコンルスイ カ ソモキノ

a=kor rusuy ka somo ki no

欲しいとも思いもせずに

アエ、アコンニシパ トウラノ

a=kor nispa turano

旦那様と一緒に

ウヘコッパアン ヒネ

uhekotpa=an hine

仲むつまじく

オカアンベ ネ ヒケ

oka=an pe ne hike

暮らしていたところ

ア、アコンニシパ

a=kor nispa

私の旦那様は

エキムネ コロ オロワノ

ekimne kor orowano

山へ狩りに行くと、それから

ウサ ユク チコイキッ

usa yuk cikoykip

鹿の獲物や

カムイ チコイキッ

kamuy cikoykip

熊の獲物を

エアウナルラッ ネ クス

eawnarura p ne kusu

運ぶので

ネッ カ アエシリキラッ カ

nep ka a=esirkirap ka

何の心配も

ソモキ カトゥ オラ

somo ki katu ora

なく暮らし、それから

ヤイカタ カ アリキキアンベ

yaykata ka arikiki=an pe

私も働き者

ネ クス トイタアン ワ

ne kusu toyta=an wa

ですから畑を耕して

ウサ ハル トイ、トイ、、トイタ ハル

usa haru toyta haru

いろいろな食べ物、畑の作物と

キムン ハル アエ、、	
kim un haru a=e, ,	山にある食料を
アウエカリレ ⁽¹²⁾ ネ クス	
a=uekarire ne kusu	私たちが集めたので
ネッ カ アエシリキラッ カ	
nep ka a=esirkirap ka	何の不安も
ソモキノ オカアンペ ネ ヒケ	
somo ki no oka=an pe ne hike	なく暮らしていたところ
パテッ アエイコイトゥパッ	
patek a=eykoytupa p	ただ、人をうらやんでいたが
ウコボサカン ワ ネ ワ アンペ	
ukoposak=an wa ne wa an pe	私たちに子供がいないので
パテッ アエイコイトゥパ コロ	
patek a=eykoytupa kor	そればかりを欲しがって
オカアン ペ ネ アッ	
oka=an pe ne a p	暮らしていたのだったが
ホン、、ア、アコンニシパ カ	
hon, , a=kor nispa ka	私の旦那様も
ポエイコイトゥパ ヒ イエ	
poeykoytupa hi ye	子供を欲しがることを言う
ヤイカタ カ ポエイコイトゥパアン ヒ	
yaykata ka poeykoytupa=an hi	私自身も子供を欲しいことを
アイェッ ネ クス ポヘネ、、ウ、ウネ、、	
a=ye p ne kusu po hene une, ,	言うので、なおいっそう
ポエイコイトゥパアン ヒ	
poeykoytupa=an hi	子供のことで人をうらやみ
アウコシリキラッ コロ オカアン	
a=ukosirkirapkor oka=an	互いに気に病んで暮らしていた
ラポッケ ホンコロアン ヒネ	
rapokke honkor=an hine	ところ、私が妊娠して
エアラキンネ アエイコプンテッ	
earkinne a=eyaykopuntek	本当に喜びました。
アコンニシパ ネ ヤッカ	
a=kor nispa ne yakka	私の旦那様にしても

エヤイコブンテッ ワ オロワノ ポ ヘネ
 eyaykopuntek wa orowano po hene
 アリキキ ネ ヤ オラ イイエヤム ワ
 arikiki ne ya ora i=eyam wa
 エイタサ トイタ ネ ヤ ネ、
 eytasa toyta ne ya ne,
 ナ ネウン ネウン イキアニ カ
 na neun neun iki=an hi ka
 イココパン コロ オカアン アイネ
 i=kokopan kor oka=an ayne
 ヌワッアン ルウェ ネ アクス
 nuwap=an ruwe ne akusu
 ビリカ ワ オケレ オッカヨ
 pirka wa okere okkayo
 ポイソン アコロ ワ、ワ、
 poyson a=kor wa, wa,
 オロワノ ポ ヘネ アコンニシバ
 orowano po hene a=kor nispa
 エヤイコブンテッペ ネ クス
 eyaykopuntek pe ne kusu
 ナ ボン ヒ タ アナッネ
 "na pon hi ta anakne
 アホッパ ワ、、キムンアン ヒ カ
 a=hoppa wa, kimun=an hi ka
 ア、、アコロソン アエポタラ
 a=kor son a=epotara"
 セコロ ハウエアン コロ
 sekor hawean kor
 キムン カ ソモキノ
 kimun ka somo ki no
 オカアン アイネ
 oka=an ayne
 タネ アコロソン
 "tane a=kor son

それを喜んでそれからなお一層
 頑張るとかして私を大事にして
 あまり畑仕事とかを
 あれこれと私がすることも
 嫌って暮らしていた結果
 私が出産してみると
 とてもかわいい男の
 子を産んで
 それからますます、私の旦那様が
 喜んで
 「まだ幼い内には
 彼を残して山へ行くにも
 我が子のことが心配だ」
 と言いながら
 山にも行かずに
 過ごしていた後
 「今や、我が子を

アホッパ ヤッカ ピリカ	
a=hoppa yakka pirka	残して行っても良い
パッノ ポロ クス	
pakno poro kusu	ほど大きくなったので
キムナン クス ネ ナ	
kimun=an kusu ne na”	私は山に行きますよ」
ネ セコロ ハウエアン コロ	
ne sekor hawean kor	と言うと
キムン ワ、、コ、、ワ、、	
kimun wa, , ko, , wa, ,	山へ行って
クチャサンケ コロ オロワノ ポ ヘネ	
kucasanke kor orowano po hene	狩をしながら、なお一層
ウサ カムイ ハル、ネ、、ネ ヤ	
usa kamuy haru ne ya	熊の肉とか
ネッ ネ ヤ エアウナルラ ワ	
nep ne ya eawnarura wa	何でも運んで
アエシリキラッ カ ソモキノ、、	
a=esirkirap ka somo ki no, ,	不自由なしに、、
コロ、、 アナン ラポッケ	
kor, , an=an rapokke	ながら、、暮らしていたところ
タネ アコロソン	
tane a=kor son	今や我が子が
パシテッテレケ ⁽¹³⁾ ネ ヤ	
pastetterke ne ya	よちよち歩きだとか
ソイタ アトゥラ ワ	
soy ta a=tura wa	外に私が連れて
ソイエネアン コロ エケシンネ	
soyene=an kor ekesinne	外に出るとあちこちに
ホユブ ネ ヤ キ コロ	
hoyupu ne ya ki kor	彼が走るとかすると
ポ ヘネ アエヤイコプンテッ コロ	
po hene a=eyaykopuntek kor	なおいっそう、私が喜んで
オシ アケサンバ ネ ヤ キ	
os a=kesanpa ne ya ki	その後を追いかけたりする

アコンニシパ ポ アナクネ
 a=kor nispa po anakne
 エネ カラ ワ ヤイコトウヤシ カ
 ene kar wa yaykotuyasi ka
 エラン、、ペウテッ パクノ、ノ、、
 erampewtek pakno, no, ,
 アコロソン オマフ コロ
 a=kor son omap kor
 オカアン ペ ネ アフ
 oka=an pe ne a p
 シネアンタ アコロソン
 sine an ta a=kor son
 アトゥラ カネ ヒネ
 a=tura kane hine
 ペトッタ ラナン ヒネ
 pet or ta ran=an hine
 スフライエイタンキフライエアン⁽¹⁴⁾
 suhurayeitankihuraye=an
 コロ アナン ラポッケ
 kor an=an rapokke
 ネ アコロソン ペッサム ペカ
 ne a=kor son pet sam peka
 ホユブシノッ⁽¹⁵⁾ エホユブ コロ
 hoyupusinot ehoyupu kor
 アン ラポッケ
 an rapokke
 イタンキ ネ ヤ ス ネ ヤ
 itanki ne ya su ne ya
 アフライエ オカ アン ヒ クス
 a=huraye oka an hi kusu
 イワクアン クス ペテ、、ペトプトゥン
 iwak=an kusu petopot un
 ホサリアン ヒネ
 hosari=an hine

私の旦那は子供というものを
 このようにして大事にする事も
 わからないほどに
 わが子を可愛がりながら
 私たちは暮らしていたのだったが
 ある日、子供を
 私が連れて
 川へ下りて
 鍋とお椀を洗い
 ながらいた間に
 私の子供は川縁を
 走り遊びで走って
 いる間に
 お椀だとか鍋だとか
 を洗い終わったので
 私は帰ろうとして河口へ
 顔を向けて

インカラン ルウェネ アクス

inkar=an ruwe ne akusu

見ると

ペトプトゥ ワ ヒナク ワ

petoputu wa hinak wa

河口から、どこかから

フレ シウニン ウララ⁽¹⁶⁾ ネ ヤ

hure siwnin urar ne ya

赤や緑のもやだとか

レタラ ウララ ヘ フレ ウララ ヘ ネ ヤ

retar urar he hure urar he ne ya

白いもやとか赤いもやだとかが

ウコボイボイケ⁽¹⁷⁾ コロ

ukopoypoyke kor

互いに混じり合いながら

ペットゥラシ エクシリ エカリ

pet turasi ek siri ekari

川に沿って来る様子の方を

アヌカラ オラ、アエキマテク クス

a=nukar ora, a=ekimatek kusu

見てから私は驚いたため、

マクネ ワ ネ ヤ

mak ne wa ne ya

どうしてなのか

アコロソン、アコ、ソロマ セコロ

a=kor son, a=ko, sorma sekor

我が子にソロマと

アコンニシバ レコ ヒネ

a=kor nispa reko hine

旦那様が名付けて

オカアンペネ ア、ヒ クス

oka=an pe ne a hi kusu

いたものだったので

ソロマ ソロマ、

"sorma sorma,

「ソロマー！ ソロマー！

ホユ、ホユク、ホユプ

hoyu, hoyuk, hoyupu

走れ！

ホクレ エク オコッコ⁽¹⁸⁾ エク ナ

hokure ek okokko ek na

さあ、おいで。お化けが来るぞ！

イシトマアン ナ ホクレ エク エク

isitoma=an na hokure ek ek"

恐ろしいぞ。早く来い！来い！」

セコロ ハウエアナン コロ

sekor hawean=an kor

と言いながら

ソロマ ソロマ セコロ

"sorma sorma" sekor

「ソロマー！ソロマー！」と

ハウエアナン コロ アコロソン

hawean=an kor a=kor son

アホトゥイエカラ コロ

a=hotuyekar kor

アナン ラポッケ

an=an rapokke

ネ アコロ ソロマ エキ クス

ne a=kor sorma ek hi kusu

ナニ テケ アアニ ヒネ エカン ヒネ

nani teke a=ani hine ek=an hine

アウニ タ エカン ヒネ

a=uni ta ek=an hine

オコッコ エク ナ アウニ タ

“okokko ek na a=uni ta

アフナン ワ オカアン クス ネ

ahun=an wa oka=an kusu ne”

セコロ ハウエアナン コロ

sekor hawean=an kor

アコロソン アテムニコロ

a=kor son a=temnikoro

アオマレ ヒネ オラ

a=omare hine ora

ネブ カ アカラ カ ソモキノ

nep ka a=kar ka somo ki no

チセ オンナイ タ スイナクアン ヒネ

cise onnay ta nuynak=an hine

オカアン ルウェネ アクス

oka=an ruwe ne akusu

シットケシ アクス アコロ ニッパ

sittokes akusu a=kor nispa

イワク ヒネ アフン ヒネ

iwak hine ahun hine

マクネ ヒネ、 、 ネブ カ

“mak ne hine nep ka

言いながら我が子を

私が呼んで

いたところ

その私のソロマが来たので

すぐにその手をつかんで来て

我が家に帰って

「お化けが来たぞ。家に

入っていきましょう」

と言いながら

我が子を私の腕の中

に抱えてから

何もせずに

家の中に隠れて

いたところ

日が暮れると私の旦那様が

帰って来て

「どうして何にも

アカラ カ ソモキ、

a=kar ka somo ki,

スケ エトコイキ カ ソモキノ

suke etokoyki ka somo ki no

アナン ルウェ ネ ヤ セコロ

an=an ruwe ne ya" sekoro

イコウェペケンヌ イ クス

i=kowepekennu hi kusu

タプネカネ ペトッタ ラナン ワ

tapne kane "pet or ta ran=an wa

スフライエイトンキフライエアン コロ

suhurayeitankihuraye=an kor

アコロソン アトゥラ カネ ヒネ

a=kor son a=tura kane hine

ラナン ヒネ アナン ヒ クス

ran=an hine an=an hi kusu

ホシピアン クス ペトプトゥン

hosipi=an kusu petoput un

インカラン アクス レタラ ウララ

inkar=an akusu retar urar

フレ ウララ シウニン ウララ

hure urar siwnin urar

ウコポイボ、ウコポイケ ワ

ukopoypo, ukopoyke wa

ウコノイノイケ ヘネ キ ペコロ

ukonoynoyke hene ki pekor

イキ コロ ペットウラシ エタ

iki kor pet turasi ek

シリイキ ワ オラ イットマアン ワ

siri iki wa ora istoma=an wa

オコッコ エク ナ エク ナ

okokko ek na ek na

セコロ アコロソン アイェ コロ

sekoro a=kor son a=ye kor

していない、

食事の準備もしないで

いたのですか？」と

私に尋ねたので

次のように言った「川に下りて

鍋とお碗を洗っていると

子供を連れて行って

下りていたので

私が帰るために川下を

見ると白いもやと

赤いもやと青のもやが

混ざり合って

捻り合うように

しながら川に沿って来る

様子がして私は恐ろしくなって

お化けが来るぞー！来るぞー！

と我が子に言いながら

アトゥラ ワ エカン ワ	
a=tura wa ek=an wa	連れて帰って
アテムニコロ タ、ア、、ワ、、	
a=temnikoro ta,, wa,,	私の腕の中に
アキシマ ワ アナン ルウエネ	
a=kisma wa an=an ruwe ne"	抱きしめていたのです」
セコロ ハウエアナン ルウエネ アクス	
sekor hawean=an ruwe ne akusu	と言ったところ
アコンニッパ イヨクンヌレ コロ	
a=kor nispa iokunnure kor	私の旦那様が驚いて
オラ ナニ ソイエネ ヒネ、ソヨブ、、	
ora nani soyene hine, soyop,,	それからすぐに外に出て
ソヨシピタ ヒネ アフン ヒネ	
soyosipita hine ahun hine	家の外で身支度を解いて入って
オラ ナニ アペエトク タ ア ヒネ	
ora nani ape etok ta a hine	それからすぐ横座に座って
オラ エネ ハウエアニ	
ora ene hawean hi	から、このように言った。
マクネ ワ ネ ヤ ペットウラシ	
"mak ne wa ne ya pet turasi	「どうしたわけなのか川沿いに
フレ ウララ シウニン ウララ	
hure urar siwnin urar	白いもやと緑のもやと
レタラ ウララ ウコポイケ ワ	
retar urar ukopoyke wa	赤いもやが混ざり合って
ペットウラシ、、 シリ	
pet turasi,, siri	川に沿って行く様子を
アコロ、、 アマチヒ スカラ ヤク	
a=kor,, a=macihi nukar yak	私の妻が見たと
イエコ、、 イエ ルウエ ネ コロカ	
ye ko,, ye ruwe ne korka	言ったけれども
ネ エネ ネ ヒ カ アエランペウテク	
ne, ene ne hi ka a=erampewtek	どうなっているのか私はわかりません。
ネ エネ、、 ア、、アカ、、ア、、	
ne ene,, a,, a=ka,, a,,	どのように、、私がす、、

アカラ コロ、 、 ヤ カ アエラミンカリ

a=kar kor, , ya ka a=eramiskari

するかも私はわからない

クス フチアベ アエコシ クス

kusu huci ape a=ekosi kusu

ので火の神様にお任せしますので

フチアベ オロワノ

huci ape orowano

火の神様から

マツネ ワ ネ ウララ

mak ne wa ne urar

なぜ、そのもやが

ペットウラシ ヒ ネ ヤ

pet turasi hi ne ya

川を溯っていることなのか

フチアベ オロワノ、 、 ノ、 、 イ、 、

huci ape orowano, , no, , i, ,

火の神様から

イヌレ ウェンタラフ アニ ヘネ

i=nure wentarap ani hene

私に見せる夢でも

フチ ネ イヨペンパク⁽¹⁹⁾ ワ

huci ne i=openpak wa

おうな
媼として私に悟らせて

イコレ ヤッ オラ

i=kore yak ora

ください、とそれから

フチアベ ネ ヤッカ

huci ape ne yakka

火の神様であっても

アノミ クス ネ ナ セコロ

a=nomi kusu ne na" sekor

私はお祈りしますぞ」と

アコンニッパ ハウエアン コロ

a=kor nispa hawean kor

私の旦那様が言いながら

オンカミ ア オンカミ ア

onkami a onkami a

祈りに祈った

ルウェ ネ ヒネ オラ

ruwe ne hine ora

後でそれから

スケアン ヒネ オロワノ

suke=an hine orowano

私が料理をして、それから

エアシリ スケアン ワ

easir suke=an wa

はじめて料理をして

イペアン カ キ ヒネ オラ

ipe=an ka ki hine ora

食事もしてから

ホッケアンバ ルウェ ネ アクス

hotke=an pa ruwe ne akusu

アコンニシバ ウェンタラフ ルウェ ネ ワ

a=kor nispa wentarap ruwe ne wa

クネイワ ホプニ ヒネ

kuneywa hopuni hine

ハウ、エネ ハウエアニ

haw, ene hawean hi

フチ レタラ コソソテ へ、⁽²⁰⁾

"huci, retar kosonte he

ミカネ アン カムイ アン ヒネ

mi kane an kamuy an hine

エネ ハウエアニ、ニ、

ene hawean hi

パヨカカムイ

payoka kamuy

アネ、アネバ ヒネ、ネ、

a=nepa hine ne

タン イシカラ コタン

tan iskar kotan

アウエンテ クス、ペットウラシアン

a=wente kusu, petturasi=an

ル、ヒネ アフ エコロカッケマツ

ru, hi ne a p e=kor katkemat

パツノ、ア、アシトマ、ペ、

pakno a, a=sitoma, pe,

イサムベ ソロマ ネ アフ

isam pe sorma ne a p

ネ、マツネワ ネ ヤ

ne, mak ne wa ne ya

ソロマ ソロマ セコロ

sorma sorma sekor

ハウエアニ ハウエアニ アヌパ ワ

hawean hawe a=nupa wa

私たちが横になると

私の旦那様が夢を見て

朝、彼が起きて

このように言った。

「白い小袖

を着ている神様が現れて

このように言った。

流行り病の神が

私であって

このイシカリの村を

荒らすために川を上がった

のであったがお前の奥さんが

これほどの恐ろしい、もの

がないものがコゴミであったのを

どうしたものなのか

コゴミー！コゴミー！と

言った声を聞いて

オラ ネ ソロマ

ora ne sorma

アシトマツ ネ、 、 ネクス

a=sitoma p ne kusu

コタンウエンテアン カ ソモキノ

kotanwente=an ka somo ki no

ホシッパアン ルウェ ネ クス、 、

hosippa=an ruwe ne kusu

テワノ アナツネ、ネ、 、

tewano anakne ne, ,

コタンウエンテアン クス

kotanwente=an kusu

ホシッパアンカ⁽²¹⁾ 、 、 ペットウラシアン カ

hosippa=an ka, , pettulasi=an ka

ソモキ クス ネ クス

somo ki kusu ne kusu

ウウ、 、 イ、 、 イイ、 、 イ、 、 イシ、 、

uu, , i, , ii, , i, , isi, ,

ペットウラシアン ヒ、 、 エアニ アナツネ

pettulasi=an hi eani anakne

エヌカラ カ ソモキ コロカ

e=nukar ka somo ki korka

エマチヒ アナツネ ネ イヌカラ

e=macihi anakne ne i=nukar

ルウェ ネ クス ソンノ ネ ヒ、 、 ネ

ruwe ne kusu sonno ne hi, , ne

バヨカカムイ ペットウラシ ヒ

payoka kamuy pettulasi hi

エマチヒ、イ、 、ヌカルン ルウェ ネ クス

e=macihi i=nukar ruwe ne kusu

ネ クス ニサッタネアン ア、 、

ne kusu nisattanean wa

トカッアン チキ、 、 テワノ ネ、 、

tokap an ciki tewano ne

それから、そのコゴミを

私は恐ろしいので

村を荒らすこともせずに

私が帰るのでから

これからはその

村を荒らすため

川をさかのぼることも

しないつもりなので

、、、

私が川を上るところをお前は

見ていなかったけれども

お前の妻は私を見た

ので本当にそのことをその

流行り病の神が川をのぼることを

お前の妻が私を見たのだから

であるから明日になって

昼になったら、これからは

パヨカカムイ コタンウエンテ クス
 payoka kamuy kotanwente kusu
 ソモ アフカシバ クニネ
 somo apkaspa kunine
 セコロ アンペ エイエ コロ
 sekar an pe e=ye kor
 ウサ キナ ハル ネ ヤ ネフ ネ ヤッカ
 usa kina haru ne ya nep ne yakka
 タンパク ネヤ、ピリケフ ネヤ
 tanpaku ne ya pirkep ne ya
 キナ ハル ウコタムケ ワ
 kina haru ukotamke wa
 エチ、タパン ハル
 eci=, tapan haru
 キナ ハル パヨカカムイ、
 kina haru payoka kamuy、
 フチアペ オロワノ
 huci ape orowano
 フチアペ オソンココテ⁽²²⁾ ワ、
 huci ape osonkokote wa
 パヨカカムイ トモウンノ
 payoka kamuy tomo unno
 アラバ クニネ セコロ
 arpa kunine sekar
 エハウエアン コロ、エ、エカムイノミ ワ
 e=hawean kor e=ekamuy nomi wa
 ネ ヤクン、ウ、ネ パヨカカムイ
 ne yakun ne payoka kamuy
 ネ キナハルフ カ テムニコロホ
 ne kina haruhu ka temnikoroho
 オシマ ワ オラノ アナクネ
 osma wa orano anakne
 テワノ アナクネ エチコタヌフ
 tewano anakne eci=kotanuho

流行り病の神よ、村を荒すため
 歩かないように
 ということをお前が言いながら
 山菜の食べ物とか何であれ
 タバコとか精白したものとか
 山菜と食べ物をひとまとめにして
 お前、この食べ物と
 山菜の食べ物を流行り病の神、
 火の神様から、
 火の神様がそこへ^{こと}言づてをつなげて
 流行り病の神へまっすぐに
 行くようにと
 お前が言いながら、それを神に祈って、
 それならば、その流行り病の神は
 その山菜と食べ物も両手の中に
 入れて、それからは
 これからはお前たちの村に

ネフ カ レラカラ カ、ソモキノ

nep ka rerakar ka somo ki no

何の流行病もなく

ピリカ コタン ネ ワ

pirka kotan ne wa

良い村となって

エチオカ ナンコンナ、クス ネ ナ

eci=oka nankor na, kusu ne na

お前たちが暮らすだろう

セコロ アン ウェンタラフ アキ ルウェ ネ

sekor an wentarap a=ki ruwe ne”

という夢を私は見たのである」

セコロ クネイワ アコンニシバ

sekor kuneywa a=kor nispa

と朝に私の旦那様が

ハウェアン コロ オンカミ ア オンカミ ア

hawean kor onkami a onkami a

言うと神に祈り続け

ルウェ ネ ヒネ オラ ナニ ネ、

ruwe ne hine ora nani ne,

て、それからすぐにその

カムイ オルン イ、イチャラバ クス

kamuy or un icarpa kusu

神様のところへ供養のため

ウサ キナ ハル ウサ ピリケフ ネ ヤ

usa kina haru usa pirkef ne ya

山菜とか精白したものとか

タンパク ネ ヤ ウコタムケ ワ

tanpaku ne ya ukotamke wa

タバコとかひとまとめにして

オッチケ オロ オマレ ワ ピリカノ

otcike oro omare wa pirkano

お膳の中に入れてちゃんと

コオンカミ ア コオンカミ ア コロ

koonkami a koonkami a kor

そこへ祈りに祈ると

フチアペ オソンココテ クシ ネ ナ

”huci ape osonkokote kus ne na

「火の神に伝言をしますよ。

タン ハル、バヨカカムイ

tan haru, payoka kamuy

この食物が流行り病の神

トモウンノ、ノ、ネ クニ

tomo unno ne kuni”

のところへ向かうように」

アコンニシバ イェ コロ

a=kor nispa ye kor

私の旦那様が言いながら

オンカミ ア オンカミ ア コロ

onkami a onkami a kor

祈り続けると

ネ イチャラ、 、 チャラバ エソイネ
 ne icarpa esoyne
 コロ ワ アラバ ワ ソイタ
 kor wa arpa wa soy ta
 チャラバ ルウエ ネ ヒネ
 carpa ruwe ne hine
 オロワノ アナツネ ネ アコタヌ
 orowano anakne ne a=kotanu
 ネッ カ レラカラ カ
 nep ka rerakar ka
 ソモキノ オカアン
 somo ki no oka=an
 オヤ コタン タ アナツネ
 oya kotan ta anakne
 コタンウエンテアン ワ
 kotanwente=an wa
 コタン レラカラ、 、 ヤカイエ ヒ
 kotan rerakar, , yak a=ye hi
 アヌ コロ オカアン コロカ
 a=nu kor oka=an korka
 オ、 オロワノ アナツネ
 orowano anakne
 アコタヌ アナツネ
 a=kotanu anakne
 ネッ レラカラ カ ソモキノ
 nep rerakar ka somo ki no
 ポン モヨノ カネ アン コタン
 pon moyono kane an kotan
 アネ ヒネ オカアンペ ネ ア コロカ
 a=ne hine oka=an pe ne a korka
 ビリカ コタン アネ ヒネ
 pirka kotan a=ne hine
 オカアン アイネ、 、 ラポッケ
 oka=an ayne, , rapokke

供養をするために外に出て
 持って行って、外で
 それをまき散らして
 からは私の村に
 何の流行病も
 なく私たちは暮らした。
 別の村では
 村が荒らされて
 村が流行病になったということを
 私は聞いていたけれども
 それからは
 私の村というのは
 どんな病も流行らずに
 ごく少数の人間しかいない村
 で暮らしていたものだったが
 立派な村になって
 暮らしていた一方で

アコロソン カ ポロ ワ オラノ	
a=kor son ka poro wa orano	私の子供も成長してから
エネ アエイコイトゥパツ	
ene a=eykoytupa p	あのよう私が欲しがっていたものを
イヨマツ ネ ア コロカ	
iyomap ne a korka	可愛がるものであったが
アコロソン ポロ ヒ オラ	
a=kor son poro hi ora	子供も大きくなってから
ナ ハ、 、ナ バハ カ ポン、 、	
na HA, , na paha ka pon, ,	まだまだ年も若い、 、
ボン コロカ トゥナシノ	
pon korka tunasno	若いけれども早くに
ピリカ ポン メノコ アエトゥン ヒネ	
pirka pon menoko a=etun hine	良い娘さんを嫁がせて
トゥラノ オカアン ラポッケ	
turano oka=an rapokke	一緒に暮らしている間に
オラ ナニ ウコポコロバ シリ カ	
ora nani ukopokorpa siri ka	それからすぐ子供たちを持つ様子も
アヌカラ オラ イヨマツ	
a=nukar ora iyomap	私は見て、可愛がるものを
エネ アエイコイトゥパツ ネ アクス、ア、 、	
ene a=eykoytupa p ne akusu	あのよう私が欲しがっていたので
イヨマツ ヤイコトゥヤシアン	
iyomapyaykotuyasi=an	赤ちゃんが出来て私は安心した。
アコンニシバ トゥラ、 、ネ ヤッカ、 、	
a=kor nispa tura, , ne yakka, ,	夫と連れ立っても
ウトゥラノ パッカイ ネ ヤ	
uturano pakkay ne ya	一緒に子供を背負うだとか
アコロソン アン、 、ソン ウタラ	
a=kor son an, , sonutar	私のいとし子供たち
テケ アアニ ネ ヤ アキ コロ	
teke a=ani ne ya a=ki kor	の手を持つとかしながら
コタン ペッ コタン トゥラシ	
kotan pes kotan turasi	村の下端、村の上端と

アツカサン コロ オカアン アイネ
 apkas=an kor oka=an ayne
 タネ オンネアン クス
 tane onne=an kusu
 エトコタ アポホ エウン ネ ヤッカ
 etoko ta a=poho eun ne yakka
 タツネカネ キナ ハル クス
 tapne kane kina haru kusu
 アコタヌフ ネツ カ
 a=kotanuhu nep ka
 レラカラ カ ソモキノ
 rerakar ka somo ki no
 テ バツノ オカアン ワ
 te pakno oka=an wa
 オンネアン シリ ネクス ネ ワ
 onne=an siri ne kusu ne wa
 ネ キナ ハル ネ ヤッカ
 ne kina haru ne yakka
 ネツ ネ ヤッカ エチャヌフコロパ ワ
 nep ne yakka ecanupkorpa wa
 ア、、ワ、、テワノ ピリカ コタン
 a, , wa, , te wano pirka kotan
 ネ クニネ、、 コタン
 ne kunine, , kotan
 エブンキネバ ヤク ピリカ ナ セコロ
 epunkinepa yak pirka na sekor
 アコイタクムイエバ コロ
 a=koytakmuyepa kor
 オンネアンペ ネ アクス アイエ
 onne=an pe ne akusu a=ye
 セコロ シネ メノコ
 sekor sine menoko
 イソイタク セコンネ
 isoytak sekor ne.

歩きながら暮らしていたところ
 最近の私は年老いたので
 死ぬ前に子供たちへ
 かくかくしかじかと山菜のおかげで
 私の村はどんな
 流行病もなく
 今まで私たちが暮らして
 年老いたのであるから
 山菜であっても
 何であってもお前たちがそれを教訓にして
 これから立派な村
 になるように村を
 守るとよいぞと
 私がよく言い聞かせながら
 死んでしまったと言われている
 と一人の女が
 物語ったのである。

5. 註

- (1) 筆者はエアウナルラ eawnarura (〜を獲って来る) と解釈してローマ字表記した。
- (2) 小川氏は、「オッカイポ okkaypo (青年) もヘカチ hekaci (男の子) も同じこと」と話された。
- (3) 日本語の「再び」と筆者は解釈したが、アイヌ語のマタ mata (冬) を意味している可能性もある。
- (4) 小川氏は、ラパン rap=an (私が下りる) と言おうとしたが言い損なったので2行下で日本語によって言い直している。
- (5) 小川氏によると、父親はソロマ sorma (コゴミ) という植物名称を本名として子供に名づけたのだという。
- (6) 1999年2月3日、この物語について小川氏から解説を受けたときには「川を上って来たのはウララ urar (もや) ではない。ラヨチ rayoci (虹) だ」と訂正された。つまり、上田氏へは「流行り病の神」の姿が誤ったままに伝わったことになる。
- (7) 小川氏は、「海や山で死んだ人のラマチ ramaci (魂)、悪いものが流行りカムイになって歩いていると、昔の人から聞いている。アイヌ語のパコロカムイ pakor kamuy、イカタンパカムイ ikatanpa kamuy、パヨカカムイ payoka kamuy 等は同じ意味だ」という主旨で話されている。
- (8) 言い損なったので次行で言い直している。
- (9) 小川氏によると、イテキ クナク iteki kunak (来るな) である。詳しい用法は不明なので、語り手の和訳をそのまま記した。
- (10) 小川氏によると、流行り病の神に他の地域へ立ち去ってもらうため、その神が嫌うコゴミを茹でて干し、家の戸口や窓に縛り付けて下げるといふ。更に屋内にある貯水用のタロ taro (樽) の中にキキンニ kikinni (ナナカマド) やオプケニ opkeni (コブシ) の木枝なども入れて病気を防ぐようなことは1960 (昭和35) 頃までは普通に行われていたという。最近もインフルエンザや風邪などが流行った場合、小豆一掴みと米二掴みを小鍋で一緒に炊いたもの、線香を3本、1円か5円ぐらいの金などを置いて、流行り病の神が別の土地へ行くようにと小川氏は祈っている。現代は、流行り病の神も電車に乗って移動するため、交通費が必要になったのだという。
- (11) 物語上の叙述者がいつのまにか、母親から息子のソロマに移っている。
- (12) アウエカリブと聞こえるが、上田氏によるとアウエカリレ a=uekarire (私が〜を集める) である。この箇所は語り手が本来言おうとした語形でカタカナも表記した。
- (13) 上田氏は、「パンテツテレケ pastetterkeは、歩きかける。よちよち歩く。立ったり、座ったり、ころんだりしながら歩く2、3才頃の子供の歩き方」と話された。
- (14) 川へ行った理由が、小川氏の語りでは水汲み、上田氏の語りでは食器類を洗うためという変移がある。
- (15) 上田氏は「子供は川岸から向う岸へ何度も飛び越えて遊んでいた。大きな川ではない」と話された。
- (16) 小川氏の語りでは、クンネ ウララ kunne urar「黒いもや」とあるが、上田氏は「ラヨチ rayoci (虹) にクンネ kunne (黒) はないから、もやにクンネはない。青も紫もシウニン siwninだと思いが緑と訳すのが聞きやすい」と話された。
- (17) 上田氏は、「ウコポイポイケ コロ ウコノイノイケ コロ エク シリ エカリ アヌカラ ワ uk-opoypoyke kor ukonoynoyke kor ek siri ekari a=nukar wa (混ざり合いながら捻れ合いながら来る様子を私は見たよ)」とも話された。

- (18) 上田氏は、「オコッコ okokko (お化け) は子供へ脅かしのために言う言葉であり、大人へはウェンカムイ wen kamuy (悪神) と言う」と話された。
- (19) 上田氏は、オープンパク openpak の和訳として「何かあるなと想像する。わかる。気がねする。嫌な気持ちになる。胸騒ぎする。」などの言葉をあげた。そのときのアイヌ語文の用例は以下のとおりである。ルヤンベ アン クス ネ ノイネ コベンパク ruyanpe an kusu ne noyne k=openpak (嵐になるような感じがする)。ネフ° カ オペンパク ソモキノ エキムネ コロカ nep ka openpak somo ki no ekimne korka (何も気がねせずに山へ行っただけれども)。ネフ° カ エオープンパク ソモキノ エアン? nep ka e=openpak somo ki no a=an? (何も気がねしないでいたか?)。イオープンパクアン iopenpak=an (私が何かを想像する)
- (20) 上田氏によると、フチ huci (婆さん) は言い誤り。流行り病の神様の性別はわからないとのこと。小袖について質問すると、「パヨカカムイ payoka kamuy (流行り病の神) はカウカウ ノカ オ コソソソテ ミ kawkaw noka o kosonte mi (霞模様のある小袖を着る) と言う」と言った。この個所のレタラ コソソソテ retar kosonte he (白い小袖か?) は、はずみで出た可能性がある。
- (21) ホシツバアンカ、hosippa=an ka、(私が帰ることも、) と言い誤ったので、次の行で言い直している。
- (22) オソソココテと類似した言葉オソソコヌレが、久保寺逸彦『アイヌ叙事詩神謡・聖伝の研究』(岩波書店・1977)の注解で「o(そこに) sonko(伝言の口上) nure(聞かせる)」と分析されているのを参考にした。